

第 14 回

日本子ども社会学会大会

プログラム

2 0 0 7

第 1 日 / 6 月 30 日

第 2 日 / 7 月 1 日

昭和女子大学

大会の日程

前 日 6月29日(金)

15:30～16:50	各種委員会（大学1号館2階大会議室）
15:30～17:00	会計監査（本部館3階中会議室）
17:00～19:00	現理事会（本部館3階中会議室）

第1日 6月30日(土)

9:00	受 付（11時まで大学一号館4階 11時以降は本部館3階）
9:30～11:30	研究発表Ⅰ（大学1号館4階）
(10:10～11:20	長崎宏子特別講演会 本部館3階大会議室)
11:35～12:20	総 会（本部館3階大会議室）
12:20～13:10	昼 食
	新理事会（本部館3階中会議室）
13:10～15:10	ワークショップ(本部館3階大・中会議室)
15:20～17:45	公開シンポジウム（本部館3階大会議室）
18:00～20:00	懇親会（銀座アスター三軒茶屋店）

（地下鉄田園都市線の三軒茶屋駅の手前にあります。大学から歩いて5分です。5頁の地図を参照して下さい。）

第2日 7月1日(日)

9:00	受 付（80年館5階）
9:30～12:00	研究発表Ⅱ（80年館5階）
12:00～13:00	昼 食
	各種委員会・評議会（80年館5階）
13:00～15:00	研究発表Ⅲ（80年館5階）
15:10～16:40	ラウンドテーブル（80年館5階）

★ 各会場については、5～6頁をご参照ください。

ご案内

1. 会場

昭和女子大学 世田谷キャンパス
(4～6頁の地図を参照してください)

2. 大会実行委員会連絡先

〒154-8533 東京都世田谷区太子堂 1-7

昭和女子大学人間社会学部 初等教育学科 押谷研究室気付
日本子ども社会学会第14回大会実行委員会

Tel : 03-3411-6358 (押谷研究室)
03-3411-5762 (教授室)

Fax : 03-3411-6358

E-mail : oshitani@swu.ac.jp

[入会および会費納入等に関する相談・問い合わせは日本子ども社会学会事務局へ]

〒261-8586 千葉県美浜区若葉 2-1-1

放送大学「発達と教育」専攻 住田正樹研究室 気付

TEL/fax 043-298-4131

郵便振込口座 01760-1-85048

学会ホームページ <http://www.soc.nii.ac.jp/jscs2/>

3. 受付

6月30日 午前中(11時まで) 大学1号館4階

午後(11時以降) 本部館3階

7月1日 80年館5階

★ 受付場所がそれぞれ違っておりますのでご注意ください。

場所については6頁の地図をご参照ください。

4. 大会参加費 学会員 3,500円 臨時(当日) 会員 2,000円
(特別講演会、公開シンポジウムのみの場合は無料)

5. 懇親会 6月30日(土) 銀座アスター三軒茶屋店 会費 6,000円
(おいしい中華料理を囲んで懇親を深めていただければ幸いです。)

★場所は5頁の地図を参照してください。

6. 研究発表 個人(1人) 発表20分・質疑応答5分、共同(複数) 発表40分・質疑
応答10分とします。発表時間を厳守してください。なお、レジュ

メを用意される方は、70部以上ご用意ください。万一不足の場合、大会本部ではコピー等いたしかねますのでご了承ください。

7. 発表取消(欠席) 発表を取消(発表者が欠席する)の場合には、大会前日(6月29日)までに上記の大会実行委員会にお知らせください。なお、発表取消については、学会ニュースにその旨を掲載します。

8. 当日配布資料 当日別途資料を配布される場合は、分科会名・氏名を明記し、各分科会の発表当日、早めにご提出ください。

9. クローク

6月30日 午前中 開設しておりません。

午後 本部館3階の受付でお預かりします。

(11時～17時45分)

7月1日 80年館5階の受付でお預かりします。

(9時～16時40分)

★ 貴重品は各自でご持参ください。

10. 会員休憩室

6月30日 80年館1階の学生ホールをご利用ください。

7月1日 80年館1階の学生ホールをご利用ください。

80年館5階の5S32、5S33教室もご利用ください。

★ 喫煙場所は本部館の入り口を右に行ってくださいと設置されています。ここ以外は禁煙ですのでよろしくお願いします。

11. 昼食

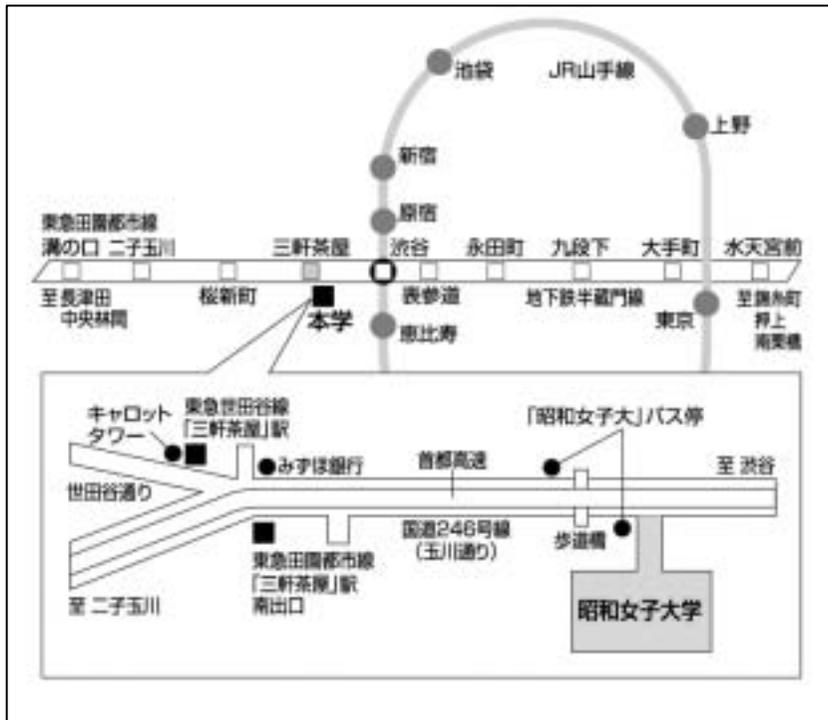
各自でお願いします。なお、6月30日は学生食堂(大学1号館地下)が開いています。80年館1階の学生ホールには自動販売機があります。

★ 7月1日は、80年館1階の学生ホールを借り切っておりますので、ご利用ください。

12. 宿泊 会場は渋谷の近くです。渋谷駅(地下鉄、バスともに大学まで15分弱)周辺が便利かと思えます。申し訳ございませんが、各自でご予約ください。

昭和女子大学

アクセスマップ



(昭和女子大学ウェブサイト <http://www.swu.ac.jp>)

交通案内

1. 渋谷駅から (約 15 分)

- ①地下鉄・・・田園都市線渋谷駅 → 三軒茶屋駅 (徒歩約 7 分)
- ②バ ス・・・西口バスターミナル 34 番乗り場 → 昭和女子大前
34 番乗り場から発車するバスは全て昭和女子大前に停車します。(正門前着)

2. 品川駅から (約 30 分)

- ① J R 品川駅 → J R 渋谷駅 → 地下鉄田園都市線渋谷駅 → 三軒茶屋駅
- ② J R 品川駅 → J R 渋谷駅 → バス乗り場 34 番 → 昭和女子大前

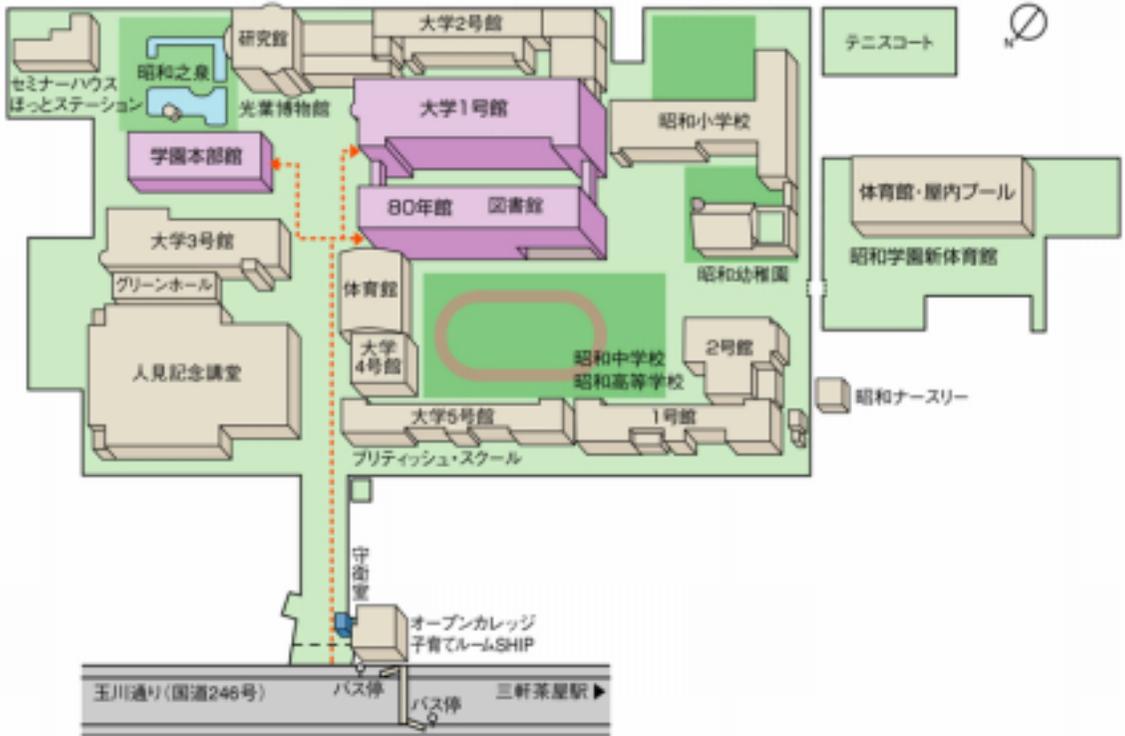
3. 東京駅から (約 40 分)

- ①地下鉄銀座線東京駅 → 表参道駅 → 半蔵門線表参道駅 → 三軒茶屋駅
- ② J R 東京駅 → J R 渋谷駅 → バス乗り場 34 番 → 昭和女子大前

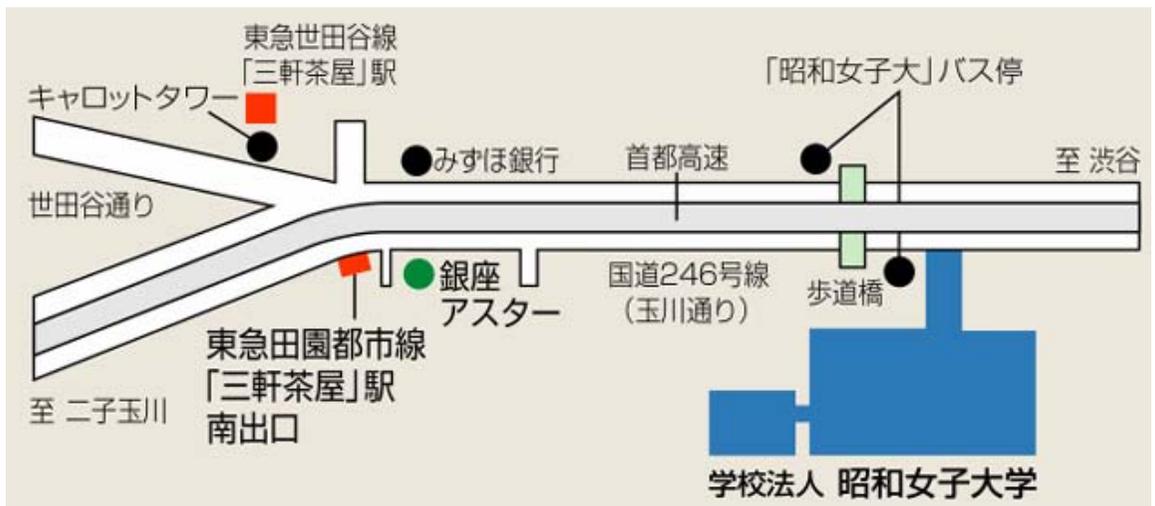
4. 羽田空港から (約 50 分)

- ①京急羽田空港駅 → 京急品川駅 → J R 品川駅 → J R 渋谷駅
→ 地下鉄田園都市線渋谷駅 → 三軒茶屋駅
- ②京急羽田空港駅 → 京急品川駅 → J R 品川駅 → J R 渋谷駅
→ バス乗り場 34 番 → 昭和女子大学

大学構内案内図



懇親会会場（銀座アスター）案内図



会場案内

大学1号館4階

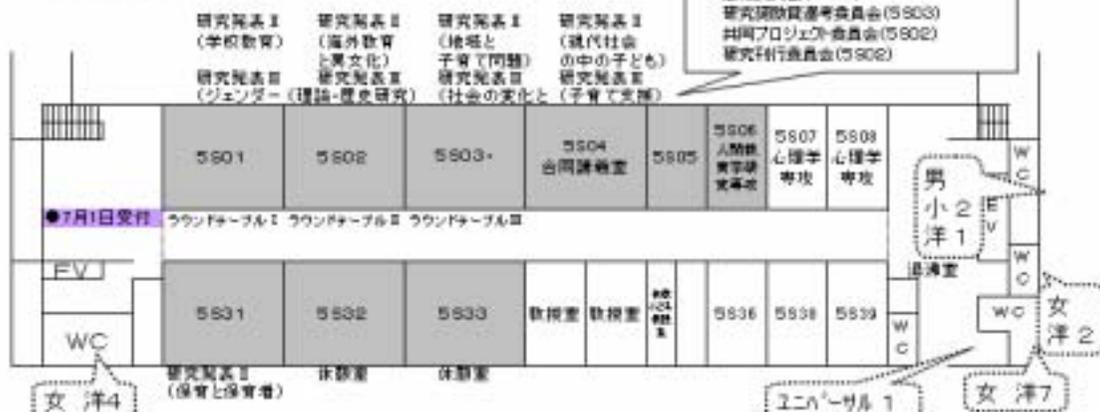


女 洋4

7月1日昼食時(12:00~13:00)の会場

- 審判委員会(5S06)
- 紀要編集委員会(5S05)
- 研究発表委員会(5S04)
- メディア活用委員会(5S04)
- 広報委員会(5S03)
- 研究奨励賞選考委員会(5S03)
- 共同プロジェクト委員会(5S02)
- 研究実行委員会(5S02)

80年館5階



★80年館1階学生ホールには、自動販売機等があります。休養室、委員会としてご利用ください。
6月30日(土曜日)のみ学生会堂(大学1号館地下)を利用できます。
★教室では食事とは遠慮ください。喫煙は、所定の場所(本部館の右横)のみをお願いします。

本部館3階



大会議室

6月30日 10:10~11:20 特別講演会(長崎宏子様)
11:35~12:20 総会
13:10~15:10 ワークショップⅠ
15:20~17:45 公開シンポジウム

中会議室

6月30日 12:20~13:10 新理事会
13:10~15:10 ワークショップⅡ

研究発表 I

6月30日(土) 9:30~11:30
大学1号館4階4S02

I-1 家庭教育

司会 神長 美津子 (東京成徳大学)
西田 忠男 (島根大学)

- 9:30~9:55 父親の育児関与の構造
- 深谷 野亜 (松陰大学)
 - 三枝 恵子 (埼玉県立松山高校)
 - 馬場 康弘 (東京成徳短期大学)
 - 深谷 昌志 (東京成徳大学)
- 9:55~10:20 小学生の保護者への子育て支援に関する調査研究(1)
- 家庭におけるしつけと学校への要望—
- 木村 敬子 (聖徳大学)
 - 小杉 洋子 (聖徳大学)
 - 夏秋 英房 (聖徳大学)
 - 木村 治生 (ベネッセ教育研究開発センター)
- 10:20~10:45 小学生の保護者への子育て支援に関する調査研究(2)
- 保護者の育児に対する不安とそれに関わる要因—
- 小杉 洋子 (聖徳大学)
 - 木村 敬子 (聖徳大学)
 - 夏秋 英房 (聖徳大学)
 - 木村 治生 (ベネッセ教育研究開発センター)
- 10:45~11:10 「学童保育の可能性—第三の教育の場として」
- 三好 正彦 (京都大学大学院)
- 11:10~ 総括討論

6月30日(土) 9:30～11:30
大学1号館4階4S03

I - 2 青少年と意識

司会 山縣 文治 (大阪市立大学)
永井 聖二 (東京成徳大学)

9:30～9:55 医療系大学生の進路意識
三戸 香代 (北里大学)

9:55～10:20 大学生のいじめ
○幕田 志芳 (東京福祉大学)
深谷 和子 (東京成徳大学)

10:20～10:45 子どもらしさと年齢
木下 昌也 (志學館大学)

10:45～11:10 フリーター言説と若者
古賀 正義 (中央大学)

11:10～ 総括討論

6月30日(土) 9:30~11:30
大学1号館4階4S04

I-3 学校・家庭・地域連携

司会 三宅 茂夫 (神戸女子大学)
高旗 浩志 (島根大学)

9:30~9:55 子どもの「居場所」のネットワーク化に関する研究
阿比留 久美 (早稲田大学大学院)

9:55~10:20 子育てネットワークと行政との関係に関する研究
○中谷 奈津子 (中京女子大学)
橋本 真紀 (聖和大学)
西村 真実 (奈良佐保短期大学)
越智 紀子 (大阪成蹊短期大学非常勤)
相戸 晴子 (九州大学大学院)
山縣 文治 (大阪市立大学)

10:20~10:45 学校・家庭・地域社会の連携における
「目に見えない」要素について
竹内 弘枝 (元放送大学大学院)

10:45~ 総括討論

6月30日(土) 9:30~11:30
大学1号館4階4S05

I-4 中等教育

司会 飯田 浩之 (筑波大学)
山田 浩之 (広島大学)

- 9:30~9:55 中学生の職業アスピレーション
寺崎 里水 (お茶の水女子大学)
- 9:55~10:20 不登校を経験した生徒の進路選択
—サポート校の生徒の「高校に行くこと」の語りから—
富岡 理恵 (上智大学大学院)
- 10:20~10:45 総合学科高校生の生活と学習
○南本 長穂 (関西学院大学)
尾場 友和 (大阪市立東淀工業高等学校)
- 10:45~11:10 高校教育改革と学校組織・生徒への影響に関する研究
尾場 友和 (大阪市立東淀工業高等学校)
- 11:10~ 総括討論

特別講演会

6月30日(土) 10:10~11:20
本部館3階大会議室

講演者 長崎宏子

(「ゲンキなアトリエ」主宰, 元オリンピック選手)

演題 「子どもとスポーツ」

子どもにとってのスポーツとは何か? 子どもスポーツの指導のあり方とは何か? 等について、貴重なご自身の体験や取組みをもとに、発達段階を押さえた子どもとスポーツとのかかわらせ方を中心に語っていただきます。

長崎宏子さんのプロフィール

小学生でオリンピックの選手となり(この時はモスクワの片肺オリンピックで欠場)その後2回オリンピックに出場。

200メートル平泳ぎの過っての日本記録保持者。

現在, “ゲンキなアトリエ” を設立し, 広く水泳の普及に尽力されている。過去の水泳を回顧した, 子ども期はわくわくどきどき期, 中学は体力のスポーツ期, 高校は思索のスポーツ期という言葉は含蓄のある名言である。

ワークショップ

6月30日（土）13:10～15:10

本部館3階大会議室

ワークショップ I

テーマ： 子どものスポーツをめぐる諸課題—子どもが描くスポーツの世界—

コーディネーター： 山本 清洋（鹿児島大学）
大野木 龍太郎（浜松学院大学）

パネリスト： 長崎 宏子（「ゲンキなアトリエ」主宰、元オリンピック選手）
長井 洋一（ジャーナリスト）

内容： このワークショップは、過去2年間、「子どものスポーツをめぐる諸課題」のテーマで実施したラウンドテーブルを受け第3回目をワークショップとして実施するものです。子どもスポーツの主体者は子ども自身ですが、これまでの研究では、子どもの〈まなざし〉からの「子どもスポーツの世界」を描いたものは皆無に近い状況です。

今回は、前半に参加者全員がKJ法を基にして「子どものスポーツ世界」を描きます。後半は過ぎて子ども期にオリンピック代表であった長崎宏子さんと自らも子どもサッカーの指導経験が豊富な永井洋一さんを交えて、前半のデータを中心として語り合い、大人の世界と異なる「子どものスポーツの世界」の特性を見出し、子ども期の豊かなスポーツ教育を实践するうえでの知見を探求してみます。

永井洋一さんプロフィール

スポーツジャーナリスト 1955年生まれ

かつて日産FCのコーチングスタッフ

「スポーツは『良い子』をそだてるか」（生活人新書） NHK出版

現在スポーツジャーナリストとして活躍。

長崎宏子さんプロフィール（再掲）

小学生でオリンピックの選手となり（この時はモスクワの片肺オリンピックで欠場）そのご2回オリンピックに出場。

200メートル平泳ぎの過去の日本記録保持者。

現在、「ゲンキなアトリエ」を設立し、広く水泳の普及に尽力されている。過去の水泳を回顧した、子ども期はわくわくどきどき期、中学は体力のスポーツ期、高校は思索のスポーツ期という言葉は含蓄のある名言である。

ワークショップⅡ

テーマ： 子どもの地域参画活動の可能性を探る

コーディネーター： 萩原 元昭 (埼玉学園大学)
萩原 健次郎 (駒澤大学)

パネリスト： 山田 美由紀 (日本システム開発研究所)
萩原 元昭 (埼玉学園大学)
萩原 健次郎 (駒澤大学)

内容： 高知円津野町と熊本県多良本町において、子ども達だけで、地域で実施してみたい活動のトップは「子どもだけの祭」でした。子ども達が集まり、何度も話し合いを持ち、企画し、求めに応じた町の人たちの支援を受けながらも、自分達だけで実施できた達成感・満足感は、参画した子どもたち一人一人の能動性や人とかかわる能力や有能性を促進するいわば自己肯定感を生ずるだけでなく、町の大人達なたちへの感謝と信頼感を生じたことは、子ども達の実践発表の報告会や感想から読み取れる。

このワークショップでは、全国200ヶ所以上に広がっている子ども達の冒険遊び場プレイパークの実践について豊富な経験を基に、新たに実践知を生み出されている入江洋子氏、中・高生の地域の居場所作りの実践知を探究されている萩原健次郎氏、さらに全国市町村の町づくり、村づくりの行政計画のちょうさ、開発に豊富なキャリアを持ち、日本社会の将来構造としての参画型社会についてスピークアウトの経験を持っておられる山田美由紀氏を迎えて、子ども達による地域参画型活動の基盤や子ども達の求めに応じた支援の方法やネットワークなどについて、豊富な実践や研究事例を通して、地域における子どもの参画活動ならびに、支援の方法の実践知を引き出すことを意図している。

公開シンポジウム

6月30日(土) 15:20~17:45

本部館3階大会議室

テーマ

「子ども社会」の変容と対応

— 学校・家庭・地域の連携という視点から —

趣旨

子どもたちが引き起こす悲惨な事件が続発しています。今日の子ども社会の変化はわれわれの想像をはるかに超えているように思います。いまこそ、子ども社会がどのように変化したのか、その変化に大人社会はどのように対処すればよいのかを、もっと現実在即して研究していく必要があります。

そのような問題意識から、本シンポジウムにおいては、「子ども社会の変容と対応」をテーマに、学校における「子ども社会」、家庭における「子ども社会」、地域における「子ども社会」それぞれの変化をたどりながら、連携という形で対応を考えていく場合、どのような視野が開かれてくるのかを考えていこうと思います。

それは、現在さまざまに提案されている教育改革とも、密接に関係します。これからの子ども教育は、学校・家庭・地域の連携が不可欠ですが、それぞれの場における「子ども社会」の実態を十分に押さえていないと本当の連携はできません。深刻化する子どもの問題行動や教育改革の動向も踏まえて、議論を深められればと考えています。多くの皆様の参加をお待ちしております。

シンポジスト

- 1 学校における「子ども社会」の変容と対応を中心に
昭和女子大学 有村久春
- 2 家庭における「子ども社会」の変容と対応を中心に
鳴門教育大学 伴恒信
- 3 地域における「子ども社会」の変容と対応を中心として
放送大学 住田正樹

コーディネーター 昭和女子大学 押谷由夫

研究発表Ⅱ

7月1日(日) 9:30~12:00
80年館5階5S01

Ⅱ-1 学校教育

司会 小川 哲男 (昭和女子大学)
太田 佳光 (愛媛大学)

9:30~9:55 学級内における「他者」との関係
—仲間集団の位置関係から—
池田 曜子 (奈良女子大学博士研究員)

9:55~10:45 学力に及ぼす家庭と学校の影響
○西本 裕輝 (琉球大学)
○水野 考 (広島大学大学院)
山崎 博敏 (広島大学)

10:45~11:10 埼玉県鷲宮町議会「学校給食に弁当の日を
設けることについて」決議から見たこと
深作 拓郎 (子育て学ネットワーク・
法政大学非常勤)

11:10~11:35 子どもの読書に関する社会学的研究
吉岡 一志 (広島大学大学院)

11:35~ 総括討論

7月1日(日) 9:30~12:00

80年館5階5S02

Ⅱ-2 海外教育と異文化

司会 村上 登司文 (京都教育大学)
中坪 史典 (明星大学)

9:30~9:55 「子ども域」の文化人類学的研究
—バングラディシュ農村社会における
子どもの集団形成—
南出 和余 (京都大学研究員)

9:55~10:20 韓国における祖母による子育てに関する質的研究
金銀桂 (韓国釜山大学)
○李河姪 (九州大学大学院)

10:20~11:10 三都市(東京・ソウル・天津)の
母親の育児行動と意識に関する考察
○朴 珠鉉 (東京家政大学大学院)
○三枝 恵子 (埼玉県立松山高等学校)
馬場 康宏 (東京成徳短期大学)
深谷 野亜 (松陰大学)
深谷 昌志 (東京成徳大学)

11:10~11:35 学校における異文化の共有化
—小学校給食活動を事例として—
真鍋 眞澄 (上智社会福祉専門学校非常勤)

11:35~ 総括討論

7月1日(日) 9:30～12:00
80年館5階5S03

Ⅱ－3 地域と子育て問題

司会 尾島 重明 (三重中京大学短期大学部)
白松 賢 (愛媛大学)

- 9:30～9:55 「障害児福祉理念と現実との関係性」
－「出生前診断」問題を基盤として－
末光 正和 (富山福祉短期大学)
- 9:55～10:20 子育て実践共同体としての公園の意義について
堂本 真実子 (東横学園女子短期大学)
- 10:20～10:45 非行少年は、少年鑑別所で何を学ぶのか
－意味空間としての少年鑑別所と教育可能性について－
山内 啓路 (東京少年鑑別所)
- 10:45～11:35 少子社会における育児支援の課題
－沖縄県内自治体を事例に(2)－
○馬居 政幸 (静岡大学)
○与那嶺 涼子 (名桜大学)
- 11:35～ 総括討論

7月1日(日) 9:30~12:00
80年館5階5S04

Ⅱ-4 現代社会の中の子ども

司会 小田 豊 (国立特殊教育総合研究所)
田中 理絵 (山口大学)

9:30~9:55 子どもの「キレる」現象の定義づけへの試み
—社会背景と研究動向からの定義—
長櫓 涼子 (聖和大学大学院)

9:55~10:20 子どもの「引きこもり」と家族の生活文化との関係
宮内 克代 (埼玉学園大学)

10:20~11:10 4つの地域(長野、富山、都下、都心)の子どもたち
—子どもの抑うつとレジリエンス(回復する力)を中心に—
○深谷 和子 (東京成徳大学)
○斎藤 浩子 (東京成徳大学)
三枝 恵子 (埼玉県立松山高校)

11:10~ 総括討論

7月1日(日) 9:30~12:00

80年館5階5S31

Ⅱ－5 保育と保育者

司会 田中 亨胤 (兵庫教育大学)
坪井 貴子 (金城学院大学)

9:30~10:20 保育者養成機関への期待に関する調査研究

高旗 正人 (中国学園大学)
○中田 周作 (中国学園大学)
○池田 隆英 (精華女子短期大学)

10:20~11:10 教育・保育職者のもつ子ども観

住田 正樹 (放送大学)
横山 卓 (福岡女子短期大学)
○中村 真弓 (尚絅大学短期大学部)
清水 一巳 (九州大学非常勤)
○山瀬 範子 (四国大学短期大学部)

11:10~11:35 生江考之の保育事業

和田 真由美 (書写寺子屋学院)

11:35~ 総括討論

研究発表Ⅲ

7月1日(日) 13:00~15:00

80年館5階5S01

Ⅲ-1 ジェンダー

司会 熊澤 幸子 (昭和女子大学)
加野 芳正 (香川大学)

- 13:00~13:25 幼児の性自認のゆらぎ
大滝 世津子 (東京大学大学院)
- 13:25~13:50 性別選好の産育文化について
—理解と分析のための枠組を中心に—
坂元 一光 (九州大学)
- 13:50~14:15 幼児期における身体的諸活動とジェンダー(2)
藤田 由美子 (九州保健福祉大学)
- 14:15~14:40 戦後期女子中高生に見られる
近代的恋愛の浸透と作用
藤本 純子 (大阪大学大学院)
- 14:40~ 総括討論

7月1日(日) 13:00~15:00
80年館5階5S02

Ⅲ-2 理論・歴史研究

司会 新富 康央 (東京純心女子大学)
細辻 恵子 (甲南女子大学)

13:00~13:20 子ども文化の戦争責任(煽動責任)は誰がとるのか
—戦中・国策紙芝居と戦後・平和紙芝居の検証—
鈴木 常勝 (立命館大学非常勤)

13:20~13:45 保育のなかの紙芝居:関屋友彦の
福音紙芝居活動を通して
○種市 淳子 (名古屋柳城短期大学)
鬢櫛 久美子 (名古屋柳城短期大学)

13:45~14:10 ルソーの子ども観
○原田 彰
望月 重信 (明治学院大学)

14:10~14:35 ルソーの子ども観
○望月 重信 (明治学院大学)
原田 彰

14:35~ 総括討論

7月1日(日) 13:00～15:00

80年館5階5S03

Ⅲ－3 社会の変化と子どもの生活

司会 住岡 英毅 (大阪青山大学)
武内 清 (上智大学)

13:00～13:50 中山間地における地域社会の変容と子どもの生活

- 岡崎 友典 (放送大学)
- 春日 清孝 (明治学院大学非常勤)
- 夏秋 英房 (聖徳大学)
- 富江 英俊 (日本女子体育大学)
- 牧野 修也 (神奈川大学非常勤)

13:50～14:15 テレビゲームの「ハイブリッド化」現象と
子どもの遊び

松田 恵示 (東京学芸大学)

14:15～ 総括討論

Ⅲ－4 子育て支援

司会 柴崎 正行 (大妻女子大学)
青井 倫子 (愛媛大学)

13:00～13:25 園の教育課程に位置づけることを見通した

子育て支援の模索的展開Ⅰ

－地域との連携で推進する子育て支援－

○多田 琴子 (姫路市立曾左幼稚園)

小林 みどり (兵庫教育大学附属幼稚園

・兵庫教育大学大学院)

13:25～13:50 園の教育課程に位置づけることを見通した

子育て支援の模索的展開Ⅱ

－保護者参画による保育への取り組みから親育ちを促す－

○小林 みどり (兵庫教育大学附属幼稚園

・兵庫教育大学大学院)

多田 琴子 (姫路市立曾左幼稚園)

13:50～14:15 認定子ども園における子育て支援

塩田 公子 (東京医療保健大学)

14:15～14:40 子育て支援に係わって支援する側に要求されるもの

島崎 幸恵

(社)埼玉療育園発障害児支援センター・

(社)子育て支援センター)

14:40～

総括討論

ラウンドテーブル

7月1日 15:10～16:40

80年館5S01

ラウンドテーブル I

テーマ： 子守唄・わらべうたの伝承と普及に向けての取り組み

コーディネーター・司会者： 鶴野 祐介（梅花女子大学）

話題提供者： 西舘 好子（NPO法人 日本子守唄協会代表）
落合 美知子（放送大学大学院修士2年）
他1名

内容： 子守唄やわらべ歌は、子どもが生まれて最初に享受する「文化」のひとつであり、かつては親と子（家族）、子ども社会、地域社会など、さまざまな人間関係における「心の絆」として機能していた。しかし、1960年代の高度経済成長以降の急激な社会変動は、いわゆる伝承の子守唄やわらべうたの継承を困難なものにし、21世紀初頭の今日、家族、子ども社会、地域社会のそれぞれにおいて、「心の絆」をうまく取り結ぶことができないが故の、子どもをめぐる痛ましい事件が後を絶たない。子守唄やわらべ歌の意義が問い直されるべき時代を迎えていると言える。

「教育」「子ども文化」「子ども社会」の専門家およびこれらに関心を持つ人々が集う本学会のラウンドテーブルにおいて、第12回大会（大阪市立大学）に続いて再び、子守唄やわらべうたの伝承と普及に向けてさまざまな立場で活動을続けてこられた方々に実践報告をしていただき、それを踏まえて今日的課題や今後の展望を語り合う場を持ちたいと考えている。

7月1日 15:10～16:40

80年館5S02

ラウンドテーブルⅡ

テーマ： 幼児の性自認に関する方法論的検討

コーディネーター： 岸澤 初美 (立教大学兼任講師)
近藤 弘 (立教大学)
望月 重信 (明治学院大学)

司会者： 岸澤 初美 近藤 弘

提案者： 大滝 世津子 (東京大学大学院)
藤田 由美子 (九州保健福祉大学)

内容： 幼児期に性自認（ジェンダーアイデンティティ）が基本的に確立するといわれているが、それではどのように確立していくのかに関する実証的研究は必ずしも多くはないように思われる。そこで今回は、幼児集団の中で性自認がどのように確立していくかを実証的方法を使って研究している大滝さんと、主として遊びの中でジェンダーがどのように形成されていくかを観察等を通して実証的に明らかにしようとしている藤田さんの二人にそれぞれ提案をしていただき、それをめぐって自由に議論を展開したいと考えている。

7月1日 15:10～16:40
80年館5S03

ラウンドテーブルⅢ

テーマ： 子どもの社会的自立をはぐくむ教師の養成をどうするか

コーディネーター： 高旗 正人 (中国学園大学)
住岡 英毅 (大阪青山大学)
新富 康央 (東京純心女子大学)

司会者： 押谷 由夫 (昭和女子大学)

話題提供者： 小川 哲男 (昭和女子大学)
高旗 浩志 (島根大学)

内容： いま、教師教育の改善が大きな課題になっています。その柱に高度の実践的指導力を身につけた教員の養成（再教育も含めて）があります。一般に高度の実践的指導力は、学力面での指導ができることと考えられがちですが、本来的には、人間としての成長を促し指導できる力ということになります。

文科省は、17年度から高度の専門性と実践的指導力を兼ね備えた教員の養成ならびに現職教員の再教育の充実を図るために大学・大学院における教員養成推進プログラム(教員養成GP)の開発のための事業を行っています。研究期間は2年間であり、17年度に採択された機関は、この3月で一応のまとめを行っています。話題提供者が所属する昭和女子大学と島根大学は、いずれも採択校です。

昭和女子大学は、当大学の伝統である全人教育のプログラムを基盤として児童・生徒に向き合う体験型プログラムの開発を行っています。島根大学は、教員、学生、地域社会が協同して「1000時間体験」を中核とする独自のカリキュラムを開発しています。

それらの取り組みを小川哲男会員、高旗浩志会員に紹介していただくとともに、特にこれからの教師に求められる子どもたちの社会的自立を促すための力量形成をどのように図っていくのかについて、コーディネーターや参加者から具体例等を出していただきながら議論を深めていければと考えています。

日本子ども社会学会 第14回プログラム

発行 2007年5月

発行者 日本子ども社会学会 第14回大会実行委員会

委員長 押谷 由夫 (昭和女子大学)
委員 熊澤 幸子 (昭和女子大学)
有村 久春 (昭和女子大学)
小川 哲男 (昭和女子大学)
爾 寛明 (昭和女子大学)

日本子ども社会学会 第14回大会実行委員会

〒154-8533 東京都世田谷区太子堂1-5
昭和女子大学人間社会学部
初等教育学科 押谷研究室気付

Tel : 03-3411-6358 (押谷研究室)
03-3411-5762 (教授室)

Fax : 03-3411-6358

E-mail : oshitani@swu.ac.jp